

社会科シラバス 中学歴史

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 歴史	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	週2時間 ×2年 ※3年次は週 3時間	第1・2学年 第3学年1学期	中学社会歴史的分野(日本文教出版)
学習の到達目標	<p>(1) 人間を取り巻く環境や、身の回りでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた歴史的知識・読解力など情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。 (Science)</p> <p>(2) 異なる文化や価値観に対する理解と日本の今日の姿や歴史・文化などに対する理解を深め、それらを尊重しながら、日本に生活の基盤を置く者としての考えや価値観を世界に発信できる力を養い、現在世界で起きているさまざまな問題を解決するために多種多様な人びとと協調できる人間になる。(Global)</p> <p>(3) 歴史の学習活動を通じて、相手の立場に立って考える姿勢を磨くとともに、人文科学・社会科学の基礎的な知識を結びつけ、論理的に活用する能力を獲得し、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。 (Liberal Arts)</p>		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性>		
	<思考力・判断力・表現力>		
	<知識・技能>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
- D：未提出，未実施・・・0%

2、学習内容及び評価方法

中学1年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 月 5 月 6 月	第2編 古代までの日本と世界 第1部 人類の始まりと文明 1 人類の出現 2 古代文明の誕生 3 中国の文明と東アジア世界 4 ギリシャ・ローマの文明 5 文明と宗教	狩猟採集中心から農耕牧畜が始まることで、社会がどのように変化していくのか探る。 また、その結果、どのような特色のある地域で文明が発展していくのか、分析する姿勢を身につける。 現代政治とのつながりにおけるギリシャ・ローマや三大宗教の理解をすすめる。	□人類の進化について、特徴的な語句を使って説明できる。 □メソポタミア・エジプト・インダス文明の共通点と違いを説明できる。 □中国の国家がどのような制度を導入し広大な領土を支配できたか説明できる。 □ギリシャ・ローマの政治のしくみとその文化について説明できる。 □三大宗教が広まった地域・おこした人物、教えについて説明できる。
	第2部 日本列島の人びとと国家の形成 1 日本人のルーツと縄文時代 2 稲作の広まりと弥生時代 3 ヤマト王権と渡来人 【朝貢・冊封とは何か】 4 東アジアの統一国家 5 聖徳太子と飛鳥文化 6 律令国家の成立	旧石器～縄文、弥生、古墳と、社会がどのように変化したのか、考古的な資料から読み取れることを、まとめて説明できるようになる。 中国で成立した、律令を基礎とした強大な中央集権国家の成立が周辺の諸国にどのような影響を及ぼし、日本はどのような改革を進めて律令国家を作ったのかを学習し、理解していく。	□旧石器時代と縄文時代の、生活の工夫や特色を、その違いも含めて説明できる。 □縄文と弥生の生活や社会のあり方がどのように違うのか説明できる。 □ヤマト王権がどのようにして勢力を拡大したのか、対外関係から説明できる。 □中国の律令国家である隋や唐が周辺諸国にあたえた影響について説明できる。 □蘇我氏や聖徳太子が行った政治の改革について、行った理由を説明できる。 □大化改新から大宝律令制定にかけての中央集権化の動きについて説明できる。
	第3部 古代国家の展開 1 奈良の都と人々の暮らし 2 天平文化と聖武天皇 3 平安京と桓武天皇 4 摂関政治と国風文化	独自の律令制度がどのように運用され平安時代にかけて変質していくのかも考察する。 平安時代にかけて、律令の変質とともに、摂関政治という新しい政治システムが採用される時代性を理解し、奈良時代の天平文化から平安期にかけて、文化がどのように変化していったのか体感する。	□税を中心に、朝廷の国家作りのねらいや当時の人々の生活について説明できる。 □天平文化の特徴を「仏教」と「国際性」という視点から説明できる。 □桓武天皇がおこなった政策の特徴について説明することができる。 □国風文化発展の理由について、摂関政治の内容や外交の変化から説明できる。

<p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p>	<p>第3編 中世の日本と世界</p> <p>第1部 古代から中世へ</p> <p>1 武士の登場</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>第2部 鎌倉幕府の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の政治</p> <p>2 鎌倉時代の人々の暮らし</p> <p>3 鎌倉時代の文化と仏教</p> <p>4 元の襲来と鎌倉幕府</p> <p>第3部 室町幕府と下剋上</p> <p>1 南北朝の動乱と室町幕府</p> <p>2 東アジアの交流と琉球王国の成立</p> <p>3 産業の発展と都市と村</p> <p>4 応仁の乱と戦国大名</p> <p>5 室町時代の文化とその広がり</p> <p>第4編 近世の日本と世界</p> <p>第1部 中世から近世へ</p> <p>1 イスラム教の世界とキリスト教の世界</p> <p>2 つながれてゆく世界</p>	<p>中世の代表的存在である武士がどのように成長し、政治に影響を及ぼすようになったのかを学習し理解していく。</p> <p>院政の成立から平氏政権の成立では達成できなかった課題を鎌倉幕府が実現していく経過や背景なども社会のしくみから考察する。</p> <p>鎌倉時代に見られた社会・経済・文化における新しい傾向も武士の台頭という視点から理解する。</p> <p>また、その鎌倉幕府がなぜ衰退し、室町幕府の成立に至ったのか、外交的な事件と内政における視点から理解する。</p> <p>室町幕府のしくみについて、鎌倉幕府との比較を導入として分析し、その違いと支配の方法について学習する。</p> <p>また、地域や民衆が活発化していく室町時代のダイナミックな動きを理解するとともに、そこから芽生えた文化や社会の特色についても知識の定着をはかる。</p> <p>新航路の開拓などをきっかけに世界が一体化していくなかで、その動きを体感しつつ、日本にどうつながっていくのか想像しながら学習する。</p>	<p>□武士がどのようにおこり、力をつけていったのか説明できる。</p> <p>□平氏の政治について、貴族的な面と武士的な面から説明できる。</p> <p>□鎌倉幕府が武士に指示された理由について説明できる。</p> <p>□鎌倉時代の人々はどのように生活し、社会はどう変化したのか説明できる。</p> <p>□鎌倉時代の文化や仏教について古代との違いから説明できる。</p> <p>□鎌倉幕府がおとろえた理由について説明できる。</p> <p>□室町幕府と鎌倉幕府のしくみの違いと、その理由について説明できる。</p> <p>□室町期の日本と近隣諸国・地域がどのように交流していたのか説明できる。</p> <p>□産業の発展と、村の自治や土一揆がどのように関係しているのか説明できる。</p> <p>□「実力」などの言葉を使って戦国時代がどんな時代だったのか説明できる。</p> <p>□室町時代の文化を担った人々はどんな人々だったのか説明できる。</p> <p>□イスラム教とキリスト教の世界がどのように影響し合っていくのか説明できる。</p> <p>□一体化した世界が、それ以前の世界と比べてどう違うのか説明できる。</p>
<p>1月</p> <p>2月</p>	<p>第4編 近世の日本と世界</p> <p>第1部 中世から近世へ</p> <p>3 ヨーロッパ人の来航と信長</p> <p>4 秀吉による全国統一</p> <p>5 秀吉の海外政策</p> <p>6 安土桃山時代の文化</p>	<p>一体化しつつある世界と日本列島のつながりの中で、日本社会がどのように大きく動いていくのか、織田信長や豊臣秀吉の動向をふまえながら学習し、理解していく。</p>	<p>□鉄砲とキリスト教の伝来が日本にあたえた影響について説明できる。</p> <p>□豊臣秀吉がどのような社会をつくらうとしたのか説明できる。</p> <p>□朝鮮への侵略がもたらした影響について説明できる。</p> <p>□安土桃山時代の文化の特徴と、生み出された理由が説明できる。</p>

	<p>第2部 江戸幕府の成立と東アジア</p> <p>1 全国支配のしくみ</p> <p>2 朱印船貿易から鎖国へ</p> <p>3 隣接地域との関係とアイヌ文化の成熟</p> <p>4 江戸時代の百姓と町人</p>	<p>○江戸幕府の諸政策に着目して、260年にわたる江戸幕府の支配が確立した背景を理解する。</p> <p>○朱印船貿易の推進から鎖国の開始まで、対外政策の転換した過程を、その理由を含めて、貿易・宗教・情報の視点に着目して考える。</p> <p>○鎖国下の日本の対外交流について整理して理解する。</p> <p>○江戸時代の社会の特色について、身分制を中心に理解する。</p>	<p>□安定的な支配を進めるために江戸幕府が行ったことについて説明できる。</p> <p>□江戸幕府がいわゆる鎖国政策を行った理由について説明できる。</p> <p>□江戸時代の、隣り合う国や地域との関係について説明できる。</p> <p>□江戸時代の身分ごとの役割について整理したうえで説明できる。</p>
評価の観点及び内容		評価方法（具体例）	
<p>歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞</p>		<p>①：授業ノート提出・ワークシート提出・授業出席点(30%)</p>	
<p>歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞</p>		<p>②：定期試験(35%)</p>	
<p>我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞</p>		<p>③：定期試験(35%)</p>	

【観点別評価】

1. ノート提出

A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。

B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。

C：補充できていない空欄が存在する。

D：未提出

2, ワーク課題

課題内容	評価指標
<p>農耕と文明の因果関係を想像しよう</p>	<p>A：文明の特徴がどのように生まれ、どのように影響を与えたのか、その文物を正しく理解しながら、因果関係について多面的に考察し、表現している。</p> <p>B：因果関係への考察に努力が見られるが、その分量が不足しており、限られた視座に留まっている。</p> <p>C：文明の特徴的な文物を誤って理解しているか、その院外関係の考察が不十分かつ分量が著しく少なく、考察の努力が読み取れない。</p> <p>D：未提出</p>
<p>隣接地域の関係 (p130-133の内容を読み取り、ノートを作成する)</p>	<p>A：詳細な知識を絵図や表を用いてわかりやすく整理し、他者の理解を促進できるような適切な構成・表現をして作成できている。</p> <p>B：絵図や表が不適切であるか、教科書を丸写ししたような、創造性を感じられない構成・内容になっている。</p> <p>C：絵図や表が不適切であるか、必要な知識を教科書から読み取れていない、甚だ不十分な内容になっている。</p> <p>D：未提出</p>
<p>江戸幕府のライバル政策 (p136)</p>	<p>A：空欄を適切なことば・表現で補充できている。</p> <p>B：空欄補充に不適切なことば・表現が含まれている。</p> <p>C：補充していない空欄がある。</p> <p>D：未提出</p>

社会科シラバス 中学地理

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 地理	週 2 時間 × 2 年	第 1・第 2 学年	社会科 中学生の地理(帝国書院) 中学校社会科地図(帝国書院)
学習の到達目標	<p>(1) 自立して学習に向かう探究心を持ち、積み重ねてきた知識や経験をもとに形成した自らの考え・問題意識・価値観を他者に伝え、より良い人間関係を築くことの出来る表現力を身につける。(自立自存・寛容と共生)</p> <p>(2) 人間を取り巻く環境や、身のまわりでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた地理的知識・情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。(Science)</p> <p>(3) 現代社会において大きな課題となっている環境問題や災害に対し、自然科学と社会科学の両面から幅広い視野を持って問題意識を深め、問題解決のために行動を起こせる力を養う。(Science)</p> <p>(4) 私たちとは異なる価値観に対する理解を深め、それらを尊重しながら、現在世界で起きている様々な問題を解決するために多種多様な人々と協調できる人間になる。(Global)</p> <p>(5) SDGs の「誰ひとり残さない」という精神を念頭に、世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養う。(Global)</p> <p>(6) 様々な学習活動を通じて得られた社会科学と自然科学の基礎的な知識を有機的に結びつけ、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。(Liberal Arts)</p> <p>(7) 様々な民族や宗教・文化を背景に持つ相手の立場に立って考える姿勢を大切にしてモラルを理解し、よりよい人間関係を築くための土台を身につける。(Liberal Arts)</p>		
評価の観点	<p><主体性・多様性・協働性></p> <hr/> <p><思考力・判断力・表現力></p> <hr/> <p><知識・技能></p>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出、未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

中学 1 年生

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント, 使用教材等
4 月	第 1 部 世界と日本の地域 構成 第 1 章 世界の姿 1 私たちの住む地球を眺 めて 2 いろいろな国の国名と 位置	<第 1 部 第 1 章> 地図帳を使って世界を見渡すこ とに親しみ、大陸と海洋の分 布、国境の意味を理解してい くことで、世界を捉える視点を養 う。 面積、人口、地形、文化などの 点からいくつかの国をあげて、 さまざまな国の広がりを理解す る。 地図および地球儀の特長を考察 し、緯度と経度によって位置を 表すことを理解する。	○世界の六大陸と三大洋の位 置・名称を理解する。 ○生徒がよく知っている国を地 図上で把握し、さらに世界の広 がりを実感する。 ○緯度・経度のしくみを理解す る。 ○経度の差により標準時が異な ることや時差が生じることを計 算により理解する。
5 月	3 緯度と経度 4 地球儀と世界地図の違 い 第 2 章 日本の姿 2 時差でとらえる日本の 位置 3 日本の領域とその特色 第 3 部 日本のさまざまな 地域 第 2 章 日本の地域的特色	<第 1 部 第 2 章> 世界の中での日本の位置や、日 本の領域と領土をめぐる問題に ついて理解する。 日本の地形や気候の特徴を知 り、自然の恩恵および起こりや すい自然災害を考察する。	○領土問題を知ることで、国と 国との歴史や関係性を知る。 ○日本列島の広がりや主な地 形、6 気候の特徴を理解する。 ○日本の自然と災害の関係につ いて過去の事例から学び、防災 の意識を高める。
6 月	3 日本の気候 4 日本のさまざまな自然 災害 5 自然災害に対する備え 第 3 章 日本の諸地域 第 1 節 九州地方 1 九州地方の自然環境 2 火山とともにある九州 の人々の生活 3 自然を生かした九州地 方の農業 4 都市や産業の発展と自 然環境 5 南西諸島の自然と人々 の生活や産業	<第 3 章 第 1 節> 九州地方について、自然環境が 人々の生活や産業にどのような 影響を与えているかを理解す る。	○温暖な地域、火山との関わり から九州の生活・産業を知る。 ○九州地方が大陸に近いこと が、歴史や交通面で与えた影響 を考察する。 ○北九州工業地帯の衰退の理由 および新しい環境改善の動きに ついて順を追って説明できる。 ○沖縄特有の歴史と産業の関係 を説明できる。

9月	<p>第5節 関東地方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 関東地方の自然環境 2 多くの人々が集まる首都、東京 3 東京大都市圏の過密問題とその対策 4 人口の集中と第3次産業の発達 5 臨海部から内陸部へ移りゆく工場 6 大都市周辺の農業と山間部の過疎問題 	<p><第5節></p> <p>日本の中心の関東地方について、都市の役割を理解する。</p> <p>多摩ニュータウン開発による地域の変化を学ぶ。今後の多摩学につながる最初の学びという視点から、身近な地域に関心をもってもらおう。</p>	<p>○関東地方の中では、都心と郊外の地域性の違いが顕著であることを知る。</p> <p>○郊外の身近な多摩地域がニュータウン地域として開発され、今後どのような課題があるかを説明できる。</p>
10月	<p>第2節 中国・四国地方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中国・四国地方の自然環境 2 交通量の整備と人々の生活の変化 3 瀬戸内海の水運と工業の発展 <p>内の工業</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 交通網を生かして発展する農業 5 人々を呼び寄せる地域の取り組み 	<p><第2節></p> <p>瀬戸内を中心とした地域と交通網の発達の関連性に目を向ける。</p> <p>本州四国連絡橋が建設されたことで地域はどのように変容したかを調べる。</p>	<p>○三地域に区分され、気候が大きく異なる理由を説明できる。</p> <p>本州四国連絡橋が建設されたことで地域はどのように変容したかがわかる。</p>
11月	<p>第3節 近畿地方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近畿地方の自然環境 2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏 3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み 4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全 5 環境に配慮した林業と漁業 	<p><第3節></p> <p>日本の古都としての役割、東京大都市圏に次ぐ大都市圏を形成している点を理解する。</p> <p>古くから工業が発展してきた地域とその課題を理解する。</p>	<p>○近畿地方と関東地方の発展や文化の違いの要因を探ることで日本を多元的に見る目を養う。</p> <p>○近畿地方における琵琶湖の役割を知り、環境問題への取り組みに注目されてきた流れを理解する。</p>
1月 2月	<p>第4節 中部地方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中部地方の自然環境 2 中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏 3 東海で発達するさまざまな産業 4 内陸にある中央高地の産業の移り変わり 5 雪を生かした北陸の産業 	<p><第4節></p> <p>自動車を中心とした工業の発展が経済成長に関わることを理解する。</p> <p>山梨県の地理はオリエンテーション旅行で見学した富士五湖と関連づける。</p>	<p>○工業が発展した背景を知ること、産業の立地を理解していく。</p> <p>○農業が発展してきた理由を、気候や立地から理解する。</p>

第6節 東北地方	第7節 北海道地方	<p><第6節> 冷涼な自然環境が人々の暮らしにどのような影響を与えているか理解する。</p> <p><第7節> 江戸時代後期からの農業の発展、開拓の歴史と産業の発展を知る。</p>	<p>○地域の祭りと農業が結びついている意味を知る。</p> <p>○交通網が整備されたことで工業団地が形成され、地域が活性化したことを理解する。</p> <p>○稲作・畑作が国内の農業の大きな割合を占めていることを理解する。</p> <p>○自然環境と観光の結びつき、環境問題への課題を考察する。</p>
----------	-----------	---	---

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。<主体性・多様性・協働性>	①授業ノート提出・発表課題提出・授業出席点 (30%)
地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。<思考力・判断力・表現力>	②定期試験 (35%)
我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。<知識・技能>	③定期試験 (35%)

【観点別評価】

1. ノート提出

A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていると判断できるもの。

B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。

C：補充できていない空欄が存在する。

D：未提出

2, 発表課題

地域の特徴（観光案内） について発表課題	A：発表内容、資料、時間がきわめて適切で、グループ内でよく協働できている。 B：発表内容に不適切な内容を含む、資料が不十分である、発表時間が不適切であるなどといった要素を一つ含む。 C：発表内容に不適切な内容が多い、資料が不十分である、発表時間が過度に不適切であるなどといった要素を二つ以上含む。
日本国内に関連する新聞 記事ワーク	A：探究的な内容の新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明を表現したり、今後の学習を見据えた発展的な意見を述べている。 B：現代の諸課題に関連した新聞記事を選択し、他者にわかりやすい説明をしようとする姿勢が読み取ることができ、指示した課題に取り組んでいる。 C：他者にはわかりにくい説明であったり、指示した課題に取り組めていないなどといった、主体性を感じられない内容である。 D：未提出